

島嶼共生系学際研究環ワークショップ

【開催日】2009年10月10日（土）

【会場】伊豆大島 大島支庁会議室

【テーマ】島嶼共生系とは何か

【開催趣旨】

周りを海に囲まれ、大陸から隔離されている「島」では、大陸とは異なる独自の生態系や文化がみられる。また、島は面積が限られるため、その生態系は環境変化に対して脆弱であり、社会構造にも偏りがみられることが多い。そのため、島は自然科学者にとっては、進化の実験場であるとともに、環境変化に対する生態系影響に関する仮説を検証する野外実験場として、また人文社会学者にとっては、異文化の接触による新たな文化の形成やその歴史の変遷を実証的に研究できる場として、魅力的な研究フィールドである。首都大学東京においても、小笠原や伊豆諸島を中心に、様々な分野の研究が実施されてきた。特に、小笠原研究は、都立大時代から40年におよぶ研究実績をもち、本学の特色ある研究のひとつとなっている。

「島」をモデルにした文系・理系をこえた研究は、これまでも試みられてきたが、あらたな研究領域として、何をめざし、それをどのように実現していくかを客観的に説得力あるかたちで提示できているとはいえない。そこで、「空間的に限られた生態系の中で、人と自然が持続的に共生するための文化的、社会経済的、自然的条件」を、島嶼をモデルとして実証的に研究する新学術領域の確立をめざすため、2009年度に首都大学東京は島嶼共生系学際研究環を組織した。本ワークショップでは、「島」をフィールドとする研究者やそのような研究者と交流してきた島民などとの間で率直な意見交換し、課題を整理する。

【プログラム】

- 13:00～13:10 趣旨説明（可知直毅・首都大学東京）
- 13:10～13:30 参加者自己紹介
- 13:30～14:00 問題提起（湯本貴和・総合地球環境学研究所）
- 14:00～15:00 課題整理
- 15:00～15:15 休憩
- 15:15～17:15 課題検討

【出席者】

学外

湯本貴和（総合地球環境学研究所 教授 人と自然の共生学）
吉川泰弘（東京大学大学院農業生命科学研究科・教授 人獣共通感染症学）
手塚賢至（屋久島生物多様性保全協議会 会長 屋久島の保全活動）
長嶋俊介（鹿児島大学多島圏研究センター 教授 島嶼学・民俗学）
伊藤秀三（長崎大学 名誉教授 島嶼生態学・進化生態学）
山上博信（日本島嶼学会 理事 島嶼学・法学）
加藤明（株式会社計画技術研究所 取締役 地域計画）

学内

高桑史子（人文科学研究科 教授 社会行動学）
ダニエルロング（人文科学研究科 准教授 言語学）
菅又昌実（人間健康科学研究科 教授 公衆衛生学）
村上哲明（理工学研究科 教授 植物系統学）
可知直毅（理工学研究科 教授 植物生態学・島嶼保全学）
黒川 信（理工学研究科 准教授 神経生物学・海洋生物学）
沼田真也（都市環境科学研究科 准教授 植物生態学・エコツーリズム学）

オブザーバー

松本義憲（首都大学東京 事務局長）
錦織一臣（大島支庁 総務課長）
他

事務局

坂本尚子（理工学研究科 リサーチアシスタント）
近藤日名子